



ヒマワリ  
キク科の一年草

ヒマワリの花は、大きな一つの花のように見えるが、実際は頭状花序と呼ばれ多数の花が集まって一つの花を形成しているキク科植物に見られる特徴である。外側の黄色い花を「舌状花」と言い、内側の黒っぽい花を「筒状花」と言う。両方とも小さな花の集合体で形成されており、大きな一輪の花に見える。また、2m以上の高さになるものもある。

府中かんきょう塾2022 開催!

(活動センター環境学習部会)

令和4年度の府中かんきょう塾2022は、第1回から第3回までの講座を順調に開催しました。

次の第4回講座は、コロナウイルス感染防止のため過去2年間企画し中止にしてきました「浅間山の保全活動」を開催します。これは、浅間山公園と日本で唯一自生しているムサシノキスゲをはじめとする、希少な植物を保全しておられる、今年40周年を迎えられた浅間山自然保護会の活動の歴史と実績を皆さんに紹介する講座です。

このカリキュラムは地域の人々によるボランティア活動の実態を見ていただき、市民としてこれから環境問題を考え行動していくための一



▲浅間山自然保護会の啓発活動

つのヒントを提供すること、そして浅間山の自然をじっくり観察していただくことを狙いとしています。

主な内容

◆講話

- ・「浅間山の成り立ち」(武蔵野段丘を古多摩川が浸食して残った丘等)
- ・「浅間山の今昔」(昔の浅間山、戦時中の浅間山、返還された浅間山、荒れた浅間山等)
- ・「現在の浅間山」(浅間山自然保護とのかかわりからボランティア活動を開始したいきさつ)

◆現在の活動紹介

- ・「公園管理者との協働での自然保護活動」(自然環境の整備、山野草の保護・育成、その他)
- ・「各種イベントの開催」(キスゲフェスティバル、下草刈り、全山清掃、森キッズ他)
- ・「近隣小学校の総合学習への協力」
- ・「浅間山を考える会」と「保全活動ガイドライン」(ガイドラインと実績について)

◆浅間山にて山野草の観察等自然散策

この連続講座については、これからでも参加できません。ご希望の方は、電話・メールで府中市環境保全活動センターまでお問合せください。

電話 042-335-4410

メールアドレス mail@fuchu-kankyo.com



## 武蔵台公園を利用する方々の声

(武蔵台緑地保全ボランティア)

休日、天気の良い日は、武蔵台公園（武蔵台緑地）から黒鐘公園（国分寺市）に亘り個人や家族での散策が見られます。特に、黒鐘公園から斜面を登り武蔵台公園、多摩総合医療センターに抜ける道は、近くの保育園、幼稚園などの園児、医療センターのスタッフなど多くの方が利用しています。時々ホトトギスが鳴く梅雨の合間の午前中、公園内を散歩していた何組かの方にこの緑地の感想などをお聞きしました。◇健康、体力の維持が目的でほぼ毎日。緑地の状態と鳥の鳴声が気分的に良い。あまり手を入れてほしくない。ただ、歩く通路の草は刈ってほしい。(50代女性、市内在住)

◇健康、体力の維持が目的で頻繁に来る。この森の中にいる感覚が好きだ。西側にある病院フェンス際の道に草が多く、歩きにくくなった。

(60代夫婦、国分寺市在住)

◇健康、体力の維持が目的で良く歩く。アップダウンがあり街中の公園と違って良い場所である。森のようなところも気に入っている。(60代男性、国立在住)

◇犬の散歩で結構来る。街中も歩くが、この緑地の方が変化があって楽しい。随分と前から来ている。前は木や草がぼうぼうであって暗かったが、最近木が減って明るくなってきている。※ナラ枯れにより多くの木を伐採していることを説明した。(40代女性、市内在住)

◇健康、体力の維持。3カ月前から歩き始めた。自然が豊かで大変気持ちが良い。このような場所があるのは貴重である。大事にしていきたい。(60代夫婦、市内在住)

皆さんの話によるとコロナ禍の時も人が増えたように見えなかったそうで、ほとんどいつもどおりの人数であったそうです。

さらに、もっと多くの方に武蔵台公園を知っていただき、この豊かな緑で心身や体力の維持や向上につながると良いなと思います。



▲武蔵台公園（武蔵台緑地）

## 森キッズDAYin武蔵台公園

新型コロナウイルス感染症により2年間中止となった森キッズですが、感染状況が落ち着いてきたこの4月16日(土)の午前中に開催し、30名を超える親子が集まり新緑が出始めた公園で半日楽しみました。

コロナ対策の受付をしていただいてから、プログラムや注意事項の説明の後、武蔵台緑地保全ボランティアの方による武蔵台公園の散策をしました。この散策は、武蔵台公園の緑地を知ってもらうことと、葉っぱプリントに使う葉っぱを採取することが目的でした。参加した方からは「この公園をゆっくり見ることはなく自然が多く良いところだ」といった感想がありました。また、葉っぱは色や形、葉っぱプリントに向いている葉の見つけるコツなどを聞きながら、注意して採りました。



▲武蔵台公園の散策と葉っぱ探し

散策が終り会場に戻り、葉っぱプリントのコーナー、ドングリ工作のコーナー、缶バッチ作りコーナーの3箇所に分かれ、それぞれに体験しました。最終的にはどなたも3つのコーナーを回り、自分が見つけた葉っぱで作ったプリント、ドングリ・枝をあしらった工作、世界に一つしかないオリジナルの缶バッチなどを手に笑顔で帰っていかれました。

こうして自然の中で親子で友達同士でワイワイと作業した経験は、良い思い出となったと思います。このような体験が自然を大切にする思いにつながり、大人になっても自然を大事にでき、さらには地球環境のことも考えられるようになっていくものと思います。



▲親子で賑わう会場



# ホタルの飼育事業

(市環境政策課自然保護係)

市内ではかつて、市南部の水田地帯周辺においてホタルが生息しており、毎年6月頃に見られるホタルの瞬きは、ふるさとの原風景でした。

しかしながら、水路への生活排水の流出や農薬の使用などにより、ホタルのエサとなるカワナという貝が生息できなくなったことなどにより、昭和35年頃には市内からホタルは姿を消してしまったと言われていました。

市では失われたホタルの姿を市民に鑑賞してもらうため、昭和52年よりホタルの飼育事業を開始しました。一時期はホタルの成虫が全く確認できない時期が続きましたが、「府中ホタルの会」との協働によるホタル復活の取り組みを続けた結果、近年は再びホタルの成虫が確認されるようになり、昨年には延べ238匹と最近では最も多い成虫が確認され、今年も延べ100匹以上のホタルが観察されました。



▲飼育場内の草にとまり光るホタル（今年5月下旬撮影）

2019(令和元)年度には新田川緑道のホタル飼育場にて近隣の方を対象とした公開イベントを開催、また、今年度は近隣の南町小学校の児童と保護者を招待し、700人近い方にホタルを鑑賞していただきました。

ホタルを通じて、かつての美しい府中の姿を市民の皆様々に体験していただくため、府中ホタルの会と市環境政策課では今後もホタルの飼育に取り組んでまいります。



▲ゲンジボタル

# コロナ禍の浅間山

(浅間山自然保護会)

2020年1月、日本で初めてコロナ感染者が確認されてから、爆発的に感染が拡大して、3回の「緊急事態宣言」が発出され、小中学校の臨時休校、各種スポーツや観劇、大規模イベントの中止、無観客開催などの制限がされました。また、大型店舗や飲食店でも営業時間の短縮、入店者を制限しての営業などの対策が出されました。このような状況下で、ごく当たり前の生活を奪われた人たちが求めたものは、身近にある自然いっぱい公園ではないでしょうか。その一つが都立浅間山公園だと思っています。



▲浅間山公園

浅間山では、初めて来園した幼い子供連れの家族、初老の夫婦、リハビリ目的の来園が目立ちました。早朝から遠出を控えた愛鳥家のグループ、植物観察の女性グループも楽しんでいました。

早朝巡回や作業しながら来園者と話す機会が多く、特に初めての人には積極的に話しかけ、浅間山での散策の動機や印象をお尋ねしました。その多くの方は浅間山周辺に住んでいるながら、「こんな素晴らしい場所があるなんて知らなかった」とよい印象を持っていました。股関節骨折後、リハビリで毎日通ってくるご婦人は、当初1時間かかった道のりを今では30分で歩けるまで回復し、自転車もスイスイ乗れるようになったと嬉しそうに話してくれました。

浅間山は、健康増進のウォーキングやリハビリ、植物や野鳥の自然観察、一家団欒の場所、小中学校の環境学習の場として活用され、地域の貴重な存在であり、多くの方々に愛されている公園です。



▲虫とりを楽しむ親子



# 田んぼの学校再開

(府中かんきょう市民の会)

2022年5月29日(日)、第15回「田んぼの学校」の田植えを、東京農工大学本町農場で行ないました。

今年の田植えの稲の品種は「イクヒカリ」です。参加した生徒は応募に当選した23人中20人で、市内の小中学校の児童・生徒です。ケガやおたふくかぜなどで見学や欠席の生徒もいましたが、出席者は皆元気に参加しました。

田んぼの学校は2005年に第1回を開催し、2011年の東日本大震災の中止を除き毎年開催してきましたが、2020～2021年は新型コロナウイルス感染症対応で、休止せざるをえませんでした。今年から再開するにあたって、コロナ禍が収束していない状況での開催となりましたので、感染症対応を可能な限り行なうほか、年々厳しくなっている熱中症対応も行なうことを心がけました。

## コロナ対策・熱中症対策

今年は募集人数を例年の40人から20人に削減して密を防ぐことや、検温などの対策を行ない、熱中症対応として、あいさつなどを短い時間ですませたり、途中で給水タイムを入れるなどして、例年は12時頃終了だったものを、本格的に暑くなる前の11時10分には終了できました。

## 楽しかった野外での活動

府中市や小中学校での各種イベントは、この数年自粛してきましたので、修了時に聞いたところ、子ども達にとって家族と一緒に参加した田植えは、楽しかった経験だったようです。環境学習としての田んぼの学校ですが、楽しく学べるのが意味のあることです。



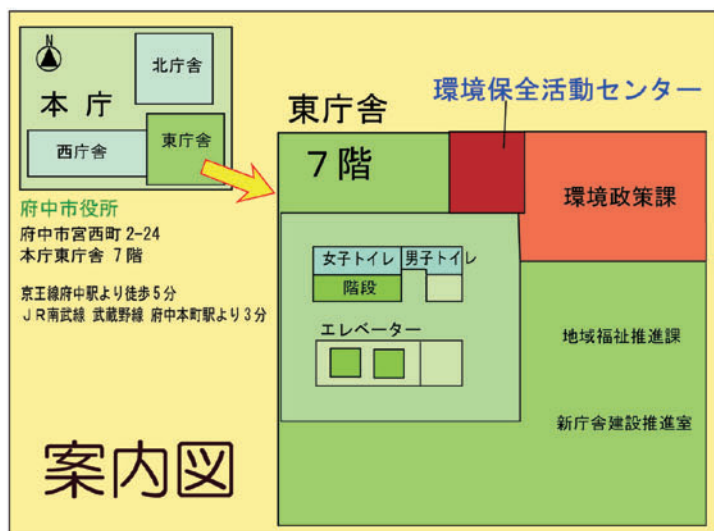
▲みんなで苗を大事に植えていきます



**ふちゅこまからのメッセージ**  
地球温暖化がどんどん進んでいるぞこま！異常気象が日常になる前に対策を間に合わせるぞこま！

# 府中市環境保全活動センター

- 所在地 〒183-8703  
府中市宮西町2丁目24番地  
本庁東庁舎7階
- 電話番号 042-335-4410
- 利用時間 午前9時から午後5時
- 休業日 土曜日、日曜日及び祝日、年末年始  
(12月29日から1月3日)
- ホームページ <https://fuchu-kankyo.com/>  
メールアドレス [mail@fuchu-kankyo.com](mailto:mail@fuchu-kankyo.com)



## 【編集後記】

最近では外来種が多くはびこってきて、花が美しく咲いている反面、日本古来の植物が隅に追いやられているようです。

・代表種「ナガミヒナゲシ」 あらゆるところに種で増殖。これらは根から根絶しないと、毎年駆除するのに大変。最近は環境に配慮して、一般市民の方の協力で除去していただいています。時には切断した液により「かぶれる」場合もあるので、特性を知っていただいで処理をお願いしたい。

・「アメリカオニアザミ」ちょっとした草むらに生息。しかも巨大に成長し葉と茎に鋭いとげを持つ。最近は環境の保全に理解のある協力者が増えました。しかし、除去した草木をそのまま放置している状況も見られます。「かたずける」ところまでが、環境保全の協力です。

緑化月間だけでなくいつでも皆さんの善意を期待し、緑化を推進したいものです。(編集委員 A・M)

発行日 令和4年7月25日  
編集・発行 府中市環境保全活動センター  
広報活動部会  
次回発行予定 令和4年10月

